

# “鮮度一番！”

No.222

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

## CONTENTS

- 1～2 / ワーママのジレンマ Vol. 5
- 2 / 『堤中納言物語』 第5話
- 2～4 / 運営委員会で話し合われたこと
- 4 / NVEC 40周年記念メッセージ
- 6 / 会員募集&投稿募集のご案内 編集後記

## Vol. 5

## ワーママのジレンマ

石本史子

前回に引き続き、ファザーリング・ジャパン新潟の大堀正幸さんへのインタビュー記事後編です。前回の内容では、ファザーリング・ジャパン新潟の行う「父親支援」について主に書かせていただきましたが、ファザーリング・ジャパン新潟以外で何が必要か。で育児休業が何のために必要なのかを紐解いていただきました。

女性活躍推進の難しさや子育ての問題がいつまでたっても解決しないのは、根本に父親の働き方を含めた環境が変わらないからではないかと大堀さんはおっしゃいます。

日本のパパたちが家事育児にどれほど参画しているのでしょうか？

詳しくは <http://fathering.jp/activities/fatherhood> をインターネットでご参照いただきたいのですが、諸外国のパパは、1日3時間前後は家事育児をしています。こちらのデータを×7日してみると、週に21時間程度参画しているパパたちは平日も家事育児をしていることがうかがい知れるのですが、日本の場合は1時間×7日＝7時間で、土日にたくさん関わって出た平均の結果だから、平日は20分未満程度の子どもの関わりしかない、ということが推察されます。それって幼い子どもにとって本当に父親と言えるのでしょうか？大堀さんは問いかけます。

私も初めてデータを拝見しました。

ましてや女性の家事育児時間は7時間41分です。これ、ほとんどフルタイムの労働ですよ。これはこれで本当に立派な事業の一つです。しかし、ここにある差が夫婦間でアンバランスととらえられてしまうのであれば、それを解決するにはやはり夫婦だけではなく、大堀さんのおっしゃる通り、企業の協力も必要になってくると思います。

そして「育児休業の利用意義」についてです。

近年、育児休業を取る男性も出てきていますが、厚生労働省によると2016年度の男性の育児休業取得率は3.16%で女性の81.8%に比べて、まだまだ雀の涙程度です。

補足ですが、私石本の個人的な意見を書かせていただくと、家事や育児のノウハウがないパパなり立てばやばやの人が家に一緒にいると、何故かパパの世話もしなくてはいけなくなり、産後なのに、非常に苦痛でした。

では取得しない方がいいのでは？いえいえ、そうではないのです。

パパが育児休業を取得するべき理由は、上手に育児をすることではなく、母親の大変さを目の当たりにする期間、なのだそうです。また、産後で精神不安定なママのメンタルヘルスケアの時期である

ことを認識し、それに寄り添うことが大事だともおっしゃいます。そうしながら、パパも母性をはぐくむ。確かに家事育児はパパよりママがやった方が早いし、楽なんだけど、その時期を作ることは子どもだけでなく夫婦ともに幸せなはずです。

そういう良い時期を過ごせば、子育ても家事も、家に帰るのも楽しくなる。パパとボール投げなどで楽しく遊べるようになる3歳になるまでの0~2歳のうちに、関わる物理的な量を増やさないと子どももなかなか懐かないし、ママともパートナーシップが切れてしまう。産後のいたわりがあったかどうかはその後離婚するかしらないかにすら関わるでしょう、と整然とお話してくださいました。

私も本当に納得しながらお話を聞かせていただきました。

またまた手前の話で恐縮ですが、うちの夫は徐々に子育てにも慣れ、今ではすっかり上手になっています。平日忙しいながらも、一生懸命子どもを愛してくれる姿はやはり嬉しいものです。と同時に、育児に仕事にと忙しいパパが少しでも息を付けるように、夫婦や企業だけでなく、社会の流れも変わって行ってほしいなど願ってやみません。そのためにも、今後もファザーリング・ジャパン新潟さんの活動が活発になってほしいものです！

大堀さん、この度はどうもありがとうございました。

## 『堤中納言物語』を読む (第5話)

「ほどほどの懸想(けそう)」 三条地名研究会 杉野真司

位相(いそう)という言葉があります。身分や年齢、職業、地域、男女差などによる言葉の違いを表します。今回の「ほどほどの懸想」は『堤中納言物語』お得意のオムニバス構成で、三つの恋話(こいばなし)が語られます。その三つは、恋の位相でも言えそうな、それぞれ身分の違う男女の恋愛を描きます。身分が低く、若い二人の恋愛は初々しい印象。次は恋愛をゲームとして楽しむやや身分も年も上の男女。三番目は貴族の貴公子の恋愛。薄幸の姫君に思いを寄せ、恋が成就して大団円かと思いきや、何でこの姫君に言い寄ったりしたんだろうと後悔するところで幕を閉じます。

平安時代末期に流行した絵巻物(えまきもの)とよばれる絵画作品があります。漫画の元祖とも言われますが、現代におきかえると、テレビや映画などのヴィジュアル作品といえるかもしれません。『源氏物語絵巻(げんじものがたりえまき)』『信貴山縁起絵巻(しぎさんえんぎえまき)』『伴大納言絵詞(ばんだいなごんえことば)』『鳥獣戯画(ちょうじゅうぎが)』が特に四大絵巻と言われます。絵巻物をご覧になると気づくと思いますが、貴族の描写は能面のような感情が読みとりにくい、引き目かぎ鼻で、典型的に描かれています。打って変わって庶民は、表情豊かに生き生きと描かれています。「ほどほどの懸想」のそれぞれの描写は、絵巻物の中での身分の違う人物の描き分けに似ています。(H29.9.30)

## 運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成29年10月4日(水) (AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター(桜木町)

11月の運営委員会は、1日(水曜日)9:30~男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

### 1. なにか報告はありませんか？

チラシを持って運営委員会に足を運んでくださった長野洋子さんから2つ、そして、田辺とも子さんからも1つ、計3つのお知らせがありました。

11月18日開催の講座は、二つ重なってしまいましたが、どちらかに出席したいと思っています。11月25日開催の田尻由貴子さんの講演へは、田辺・安室・米田・野崎が出席します。

～哲学カフェ in にいがた～

## 男女共同参画〈と〉ダイバーシティとても“危うい”関係

男女共同参画とダイバーシティは親和的な関係にはない。むしろとても“危うい関係”にある。ダイバーシティの言葉が浮上して「ジェンダー平等」や「女性への暴力/女性の人権」の言葉はすっかり影を潜めてしまった。

参画や共生を語りながら、数字合わせの参画推進や横並びの多様性で複雑化・錯綜する「差別の現実」を不在化し、男女共同参画の理念を根底から骨抜きにしていまいかねないからだ。

「哲学・カフェ」でそのことを考えたい。

男女共同参画の方向を見誤らないために、差別や平等を語る新しい言葉—ヘイトクライムやマイクロ・アグレッションさらにニンビズム—にも踏み込んで考えたい。

現代社会の差別や暴力を語る場面に、いまなぜこれらの言葉が登場しているのか、必要とされるのかについて「ワードマップ」で整理して届けたい。(講師からのメッセージ)

- ◆日 時：11月18日(土)13:30～15:30
- ◆会 場：アルザにいがた(万代市民会館3F) 306 視聴覚室
- ◆講 師：金井淑子さん(元立正大学教授 現哲学カフェ横浜主宰)
- ◆参加費：500円 ◆定 員：30人
- ◆申 込：11月10日(金)まで 藤田 TEL/FAX 025-276-5542
- ◆主 催：にいがた女性会議 社会参画部会
- ◆共 催：アルザフォーラム実行委員会・新潟市

にいがた県政出前講座 学習会

## 第3次新潟県男女平等推進プランに学ぶ

「男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会の実現に向けて」をスローガンに「第3次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)」が2017年に策定されました。

女性活躍推進計画も加わった新しいプランについて県男女平等社会推進課長からお話をお聞きし、今後の活動に生かしていきたいと考えています。

- と き：11月18日(土)13:30～15:30
- と ころ：アオーレ市民交流ホールD(長岡市大手通り1-4-10 アオーレ長岡西棟)
- 講 師：石田由美さん(新潟県男女平等社会推進課長)
- 主 催：男女がともに生きる社会を進めるF&Mながおか市民会議
- 共 催：北京JAC・新潟 中越地区 ●連絡先：榎熊 TEL0258-32-7698

田尻由貴子からのメッセージ「かけがえのない命をつなぐ」

## 赤ちゃんポストから ～見えてきたこと～

- ・出産する性をもつ女性の人権とあわせて胎児の人権を考える
- ・子どもの命を守り、命をつなぐ大切さを考える

熊本の赤ちゃんポストの開設に深い関わりを持ち、望まない妊娠・思いがけない妊娠による相談を多数受けてきた田尻由貴子さんを講師に向かえ、女性のライフステージを通して命の尊厳と人権について考えます。

- ★日 時：11月25日(土)13:30~16:00
- ★会 場：さいわいプラザ6階大会議室(長岡市幸町2丁目1-1 TEL0258-35-1122)
- ★講 師：田尻由貴子さん  
一般社団法人スタディライフ熊本特別顧問 全国妊娠SOSネットワーク理事  
ハッピーゆりかごプロジェクト講師 元熊本慈恵病院看護部長・相談役
- ★主 催：・ウィメンズスタディズ・ネットワーク  
・男女がともに生きる社会を進めるF&Mながおか市民会議  
・北京JAC・新潟 中越地区 ・長岡市男女平等推進センター  
・特定非営利活動法人子どもの虐待防止ネット・にいがた
- ★問合せ：鈴木 TEL0258-33-8227

## 2. 研修会&新年会について

当会の研修会&新年会の日程が決まりました。日時は、来年2018年1月27日(土)午後4時から研修会、午後5時から新年会、会場は、旬彩酒房たかだ(三条市旭町1-7-21)、講師は、開業助産師西方久子さん、テーマは「楽しく孫育て!!!」です。

真冬の開催で、雪の心配もありますので、ちょっと早めのスタートとしました。研修会と新年会、どちらも会場は、「たかだ」です。研修会のみ、新年会のみ参加もオッケー、お友達同伴の出席もウエルカムです。どうぞ今から予定に入れておいてください。

### 【国立女性教育会館 開館40周年記念メッセージ】

#### 「会館はやさしく癒してくれた」

田辺とも子

新潟県立生涯学習センターの指導者に引率され、国内女性研修を受講した時が会館の初体験である。その後、ジェンダー研究フォーラムや、2002年の全国交流フェスティバル実行委員をつとめるため春夏秋冬おとずれることとなった。仲間たちと参加するジェンダー研究フォーラムは毎年の恒例行事となり、皆で元気を充電しあい、いきおいワークショップを開催したことも懐かしい。

2004年、会館行き目前の7月、新潟・福島豪雨が発生。床上浸水110センチの被害に見舞われた我が家ではあったが、隣接の金属加工場は早々に復旧し、2週間後に仕事を再開、その他の片付けも進み、家族一丸となって新たな目的に向かう、それなりに平和な毎日を過ごす私であった。が時に、えも言われぬ喪失感におそわれることもある8月初旬、「今年の又エック、やめようかな？」ポツリ言うと、「エッ、行くでしょ！」と娘たち、息子と夫もうなずき、迷う私をおくり出してくれた。会館までの道中、仲間たちとの会話は格別で、「今年も来た！」ということが、すでに目的を果してしまっただけで、その年の学習はおぼろげになってしまった。

フォーラム最終日、静かになったロビーで一人、木立を見ていた。風が葉をサワサワと鳴らす。葉っぱたちが話しかけてくるように思われた。大きな自然の中につつまれている自分を感じた。心が落ち着いた。被災以前の私の日常が鮮やかに思い出された。当時の三条女性会議代表として活動を休まずつづけられたのは、仲間との存在とともに、又エックでの学びが大きな力となっていたのだと考える。そして、気づけば心のよりどころとなっていた会館の広大な庭である。多種多様な植物と樹木が永遠であることを願う。

先月号(221号)、又エック参加報告の最初の文章で、西方久子さんのお名前が落ちておりました。お詫び申し上げます。

#### 編集後記：

「秋の日は釣瓶落とし」その言葉通り日の短いこと。早く食欲の秋を満喫せねば・・・！鮮度一番222号、お届けします。どうぞ隅から隅までお読みください。(原)

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>